

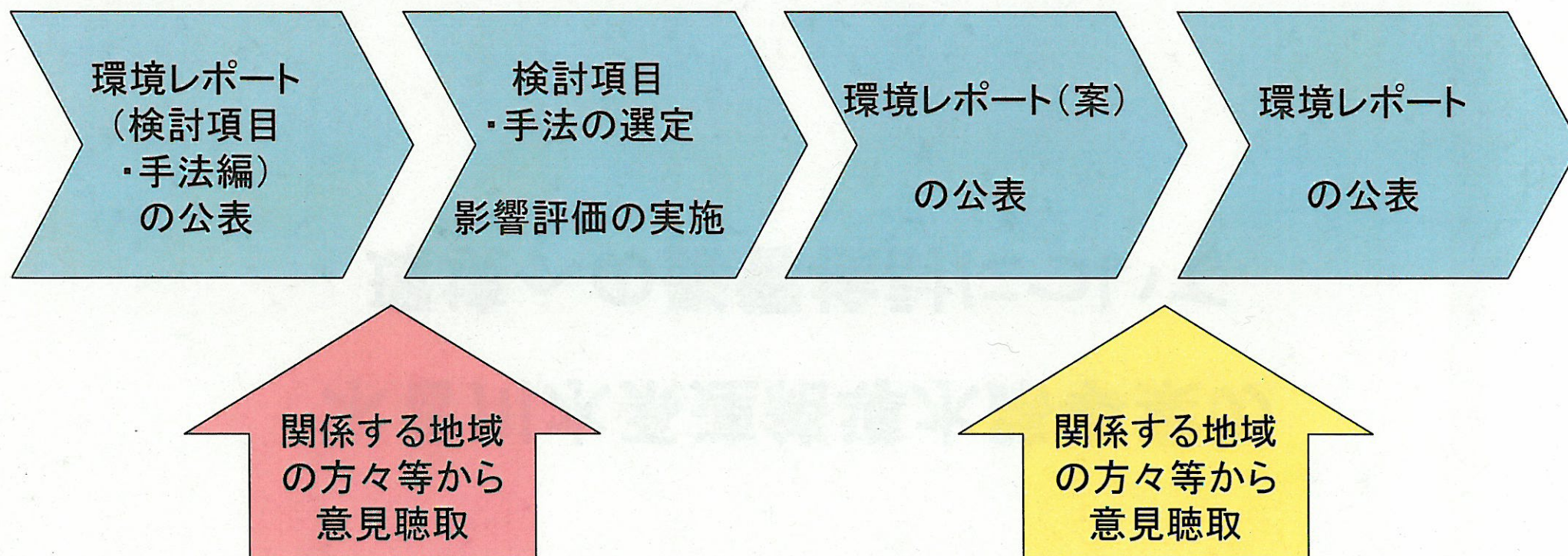
木曽川水系連絡導水路事業の 環境への影響検討について

平成21年8月12日

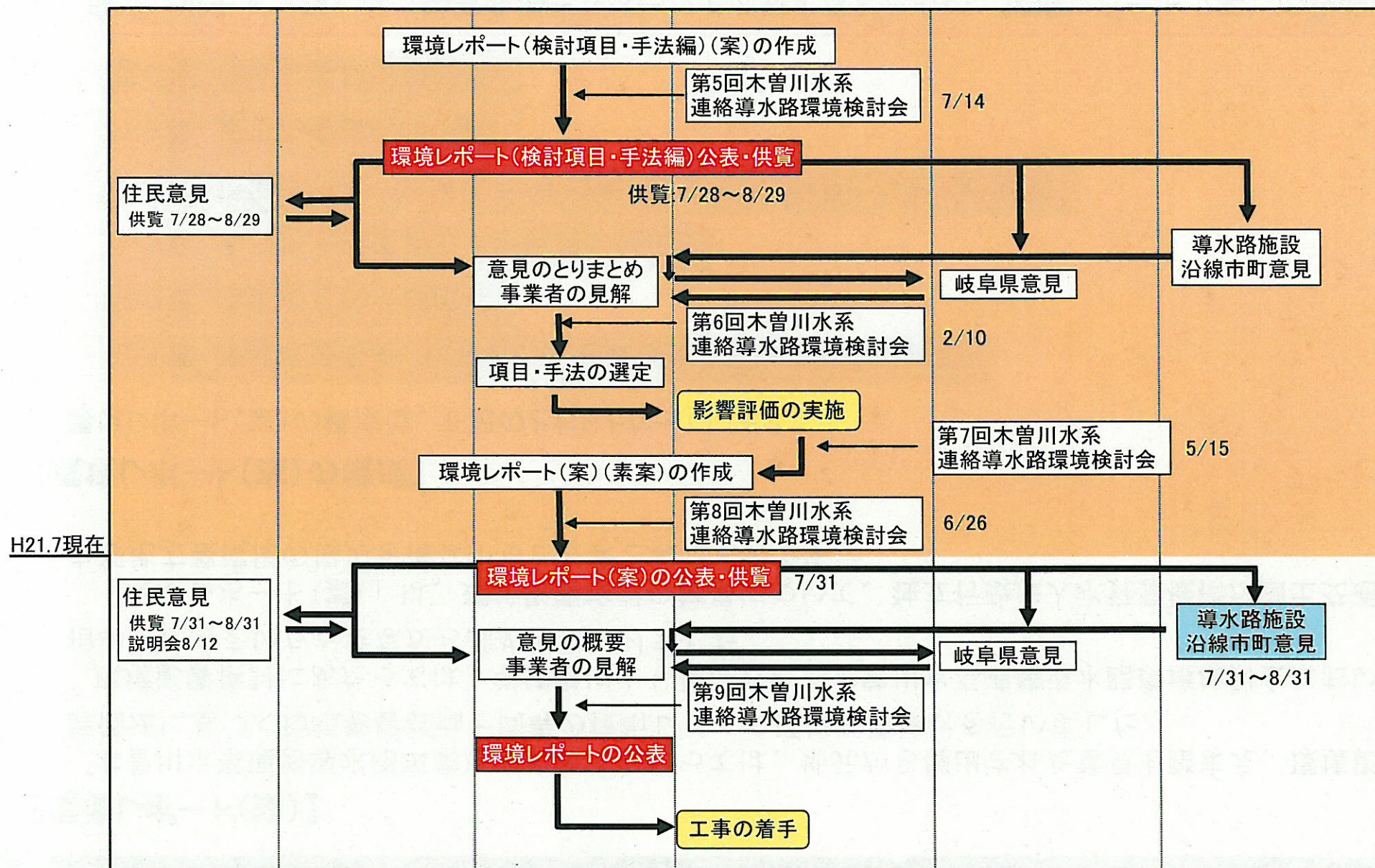
独立行政法人水資源機構中部支社
国土交通省中部地方整備局

連絡導水路事業における環境影響検討の進め方(案)

環境レポートの作成にあたり、関係する地域の方々等から意見をお聴きして、進めてまいります。



連絡導水路事業における環境影響検討の今後の進め方(案)



※今後の環境検討会の開催等については現時点の予定であり、今後変更する可能性があります。

木曽川水系連絡導水路環境レポート(案)について

【環境レポート(案)】

木曽川水系連絡導水路事業を進めるにあたっては、地元から提出された意見も踏まえ、環境影響評価法に基づく環境影響評価と同等の技術レベルの環境影響検討を行いました。

環境影響検討にあたっては、学識者により構成される木曽川水系連絡導水路環境検討会において、指導・助言をいただきながら進めてまいりました。

「環境レポート(案)」は、環境影響検討の結果について、独立行政法人水資源機構が国土交通省中部地方整備局の協力を得ながらとりまとめたものです。

【環境レポート(案)の構成】

環境レポート(案)の構成は、下記のとおりとなっています。

第1章 事業者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地

第2章 事業の目的及び概要

第3章 木曽川水系連絡導水路周辺の概況

第4章 環境レポート(検討項目・手法編)についての意見と事業者の見解

第5章 環境影響検討の項目

第6章 環境影響検討の結果

環境レポート(案)は、供覧やホームページで公表するとともに、環境レポート(案)の説明会を開催し、広く一般の方から環境の保全の見地からのご意見を伺うこととしております。

環境影響検討の項目

環境要素の区分			影響要因の区分	工事の実施	土地又は工作物の存在及び供用	
				取水施設・導水路トンネル等の工事	取水施設・導水路トンネル等の存在	取水施設・導水路トンネル等の供用
大気環境	大気質	粉じん等		○		
	騒音	騒音		○		
	振動	振動		○		
水環境	水質	土砂による水の濁り		○		○
		水温				○
		富栄養化				○
		溶存酸素量				○
		水素イオン濃度		○		○
	地下水の水質及び水位	地下水の水位		○	○	
土壌に係る環境その他の環境	地形及び地質	重要な地形及び地質			○	
動物		重要な種及び注目すべき生息地		○		○
植物		重要な種及び群落		○		○
生態系		地域を特徴づける生態系		○		○
景観		主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観			○	
人と自然との触れ合いの活動の場		主要な人と自然との触れ合いの活動の場		○		○
廃棄物等		建設工事に伴う副産物		○		

木曽川水系連絡導水路環境検討会①

木曽川水系連絡導水路環境検討会(平成18年3月6日設置)

○設立目的

検討会は、木曽川水系連絡導水路事業の実施に際し、関係地域における水環境や生物生息生育環境等に係わる現況の把握、影響と予測の評価について審議し、事業の適切な実施に資することを目的とします。

○開催状況

木曽川水系連絡導水路環境検討会の開催日及び主な議事内容等(1/3)

回数	開催日	主な議事内容
第1回	平成18年 3月6日	事業方針、環境検討の項目選定及び調査地域(上流施設)の設定。 【主な指導・助言の内容】 ・放水箇所混合状況を確認すべき。 ・魚類等の迷入による交雑が懸念される。
第2回	平成19年 3月9日	文献、秋季調査結果及び環境影響検討の概要。 【主な指導・助言の内容】 ・工事中の大気環境についても検討すべき。 ・放水箇所混合状況を確認すべき。 ・事業進捗段階に応じた地下水流動系について3次元解析を行なうべき。 ・生息が確認されている希少猛禽類の行動圏を把握すべき。
第3回	平成19年12月13日	調査結果、環境影響検討の概要、調査地域(下流施設)設定。 【主な指導・助言の内容】 ・地下水のシミュレーションでは、ボーリングの地点数を増やして精度を上げるべき。 ・水質の調査計画は、渇水期に近い状況を想定して実施すること。 ・揖斐川、長良川から外来種が迷入するのではないか。

木曽川水系連絡導水路環境検討会②

木曽川水系連絡導水路環境検討会の開催日及び主な議事内容等(2/3)

回数	開催日	主な議事内容
第4回	平成20年4月24日	調査の結果報告、今後の計画検討。 【主な指導・助言の内容】 ・ 予測・評価地域は全体を見据えた中で更に、改変する地域を集中的に実施すること。 ・ 水質シミュレーションの妥当性確認のため、実績値の再現性について確認すること。 ・ 地下水シミュレーションは、近傍の地下水データを収集、補完することが必要。 ・ 鳥類はサシバ、夜行性鳥類の確認もすること。 ・ 渇水時の下流水質データは、下げ潮だけでなく上げ潮も実施すること。
第5回	平成20年7月14日	調査の結果報告、環境影響検討項目及び予測評価の手法、環境レポート（検討項目・手法編）（案）、予測結果の速報（水質）。 【主な指導・助言の内容】 ・ 動植物については、貴重種だけに囚われず、全体の生態系を踏まえた視点でも検討を行うこと。 ・ 緑化等植生の復元を行う場合は、在来種を用いて実施するよう配慮すること。 ・ SSに関する出水時データを補填し、モデルの検証を行うこと。 ・ 引き続き局所的な混合について、調査・解析・評価をすること。 ・ 水質の予測対象時期は、至近10カ年に加えて河川の流況や上流ダムの貯留状況等を考慮し設定すること。
第6回	平成21年2月10日	調査・検討の実施状況、環境レポート（検討項目・手法編）に対する意見、環境レポート（検討項目・手法編）の訂正について。 【主な指導・助言の内容】 ・ 重要な種以外でも濃尾平野ではモロコ類は特徴的な種であるため検討していただきたい。 ・ 魚類の調査地域については、生態も考慮して設定する観点が必要と考える。 ・ 魚類の重要な種のゲンゴロウブナは、付帯事項として生息地に関する記述をしておくこと。 ・ 陸上昆虫類の重要な種については、岐阜県レッドデータブックは平成21年4月以降改訂されるので、その後は新しいリストで対応していただきたい。 ・ 取水検討地点でのCODも、当面は継続調査して確認しておくことよい。 ・ 伏流水についても事前、施工中、事後のモニタリングを行って対応することが必要である。

木曽川水系連絡導水路環境検討会③

木曽川水系連絡導水路環境検討会の開催日及び主な議事内容等(3/3)

回数	開催日	主な議事内容
第7回	平成21年5月15日	ワーキンググループでの検討状況、調査・検討の実施状況、環境レポート（検討項目・手法編）に対する追加意見。 【主な指導・助言の内容】 ・ 大気環境や水環境の予測・評価については、前提条件等を明記すること。 ・ 水環境のシミュレーションについては、現況の再現性を確認し、出水時等のデータを加味するなど、予測精度の向上に努めること。 ・ 動物（哺乳類）で、ユビナガコウモリ、ハタネズミ及びカヤネズミについては、移動性についても考慮した表現とすること。 ・ 動物（陸上昆虫類）で、ミヤマチャバネセセリ及びミイロムネビロオオキノコムシについては、調査地域を主要な生息環境にしているかを確認し、それを考慮した表現とすること。 ・ 植物の環境保全措置である移植については、マニュアルに表面的に対応するのではなく、生育実態をよく検討し、移植先の攪乱の問題にも慎重に対応すること。 ・ 植栽樹種の選定に当たっては、郷土種（在来種）を用いるように配慮すること、また、森林伐開の影響を最小化するため、林縁部を保護するソデ群落・マント群落の早期形成を図ること等を検討すること。
第8回	平成21年6月26日	ワーキンググループでの検討状況、調査・検討の実施状況、環境レポート（案）の素案について。 【主な指導・助言の内容】 ・ 局所混合の「混合までの距離」の表現は「横断方向でほぼ一様となる距離」など、またその距離には「〇〇m程度」とする等内容に合致した表現を検討すること。 ・ 予測計算等における前提条件を明記すること。 ・ 「影響は小さい」という予測の結果については、その判断基準を明記し、表現についても工夫すること。 ・ 水環境（地下水の水位）の環境保全措置の効果は、地下水の水位の低下量を低減するとともに、その影響も小さくすることであるので、それらを考慮した表現とすること。 ・ 典型性（陸域）で、環境類型区分の名称が大括りの表現になっているので、カッコ書き等で具体的な群落名を追記すること。 ・ 典型性（河川域）の監視項目のうちの生息状況の変化については、原因が把握できるように、魚類の挙動や生理的な変化等を監視項目に加えることを検討すること。モニタリングについては「河川水辺の国勢調査」の活用も考慮すること。 ・ 典型性（河川域）への影響については、放水口との位置関係が分かるような表現を検討すること ・ 実測に基づいた内容とシミュレーションに基づいた内容とが容易に区別して把握できるような表現に工夫すること。 ・ 予測計算等における前提条件を明記すること。 ・ 公表時には概要版が必要になると考える。

木曽川水系連絡導水路環境検討会④

○構成メンバー

(所属は平成21年4月1日現在)

木曽川水系連絡導水路環境検討会委員名簿

氏名		所属	専門分野
座 長	藤田 裕一郎	岐阜大学 流域圏科学研究センター 教授	河川
委 員	井口 恵一朗※2	水産総合研究センター中央水産研究所 内水面研究部 生態系保全研究室長	魚類
	小笠原 昭夫	名古屋学芸大学 短期大学部 非常勤講師	鳥類
	梶浦 敬一	ぎふ哺乳動物研究会	哺乳類、爬虫類・両生類
	西條 好迪	岐阜大学 流域圏科学研究センター 准教授	植物
	佐藤 健	岐阜大学 工学部 教授	地質・地下水
	関口 秀夫※1	三重大学 生物資源学研究科 招へい教授	底生動物
	野平 照雄	自然学総合研究所 研究員	陸上昆虫類
	松尾 直規	中部大学 工学部 教授	水質
	森 誠一※2	岐阜経済大学経済学部 教授	魚類

※1. 第3回検討会からの委員

※2. 第6回検討会からの委員

(五十音順(座長を除く)・敬称略)

